



巻頭特集

日本の「ものづくり」を陰で支える ETSUKIブランド

昭和42年に機械部品加工工場として創業、48年間にわたり、村山市で最新設備導入や技術開発に力をいれつつ、社員の技能を磨き続けてきた株式会社エツキ。高度な生産体制や高い技術力は国内有名メーカーからの信頼も厚く支持され続けています。



取材 / 茂木勝之 デザイン / 星川忠平 撮影 / 青木真人

職人により生み出される 高品質なモノづくり

〈きたにや編集室〉 村山市で印刷機械や食品機械などの産業用機械をはじめ、フライス盤や各種工作機械の製造を行っている株式会社エツキ。高度な技術力を活かした技術開発に取り組みながら、伝統の技「キサゲ」を守り、高品質の製品づくりを行っています。代表取締役社長の早坂幸起さんに会社のこれからの展望などについてお聞きしました。

地元の人材を「ものづくりの職人」として育て続ける株式会社エツキ

― 御社の沿革を教えてください。
早坂 昭和42年に先代社長で現会長の早坂悦男が、早坂製作所という部品加工工場を独立して始めました。ちょうど48年前になります。その後、



株式会社エツキ 代表取締役社長 早坂幸起さん

昭和48年に株式会社悦機として法人化し、株式会社エツキという社名にしたのは平成3年のことです。
 ― 従業員は地元の方が多くとお聞きしました。
早坂 平均年齢39歳、120名弱の従業員がいます。地元の村山産業高校をはじめ、近隣の高校などから定期的に採用していることもあり、7割ぐらいが北村山地域在住です。

― どのような製品を取り扱っているのでしょうか？
早坂 国内シェアトップの汎用フライス盤をはじめ、印刷機械や工作機械を製造しています。メーカーさんから図面をいただいて、それに基づいて製品を作る場合が多いですね。

― 仕事内容にはどのようなものがありますか？
早坂 主にマシニングセンターやNC旋盤といった工作機械を使った部品の加工や塗装・組立をしています。何年もかかって覚える職人的な仕事が多いので、社員は職場が変わることはほとんどなく、技術や技能を磨いていきます。



食品メーカーの課題解決に向けて、自社で開発し、大賞を受賞した製品も

― ゆとり都山形イノベーション大賞を受賞されたことがあるそうですね。
早坂 平成16年に、「コンパクト液体充填機」という製品で受賞しました。これは、お醤油やドレッシングといった液状のものをペットボトルや瓶などの容器に詰める機械です。以前は、機械で容器に詰めた後に、違う機械で蓋をするといった工程でした。食品メーカーさんが衛生管理的な部分で非常に敏感になってきた時代だったこともあり、詰めて蓋をするまでの工程で間が空いてしまうと、その間にどうしても異物が混入する可能性があるということなので、機械一台で詰めてすぐ蓋をすることができた機械を開発し、商品化しました。受注生産ですが、現在も作られています。



― 早坂社長は、ものづくりを大切にしておられますね。
早坂 ものづくりと聞くと、どちらかというと若い人は敬遠しがちなところがあります。でも、ものづくりというのは素晴らしい夢のある仕事だと思ふのです。手に職といいますが、図面一枚から自分の手で「もの」を作れる技能・技術というのは、一度身に付けたらどこにいても通用します。その素晴らしさをわかっていたら、日本のものづくりを誇りに思ってもらいたいですね。

